

二次評価結果（地域振興分科会）

1 開催概要

	日時	場所
第1回	6月26日（月） 午後1時30分～	特別会議室 （区役所6階）
第2回	7月3日（月） 午後1時30分～	特別会議室 （区役所6階）

2 評価委員

委員（敬称略） （◎は分科会長）	職名	備考（担当施策No）
◎ 谷本 有美子	公益社団法人神奈川県地方自治研究センター 研究員	下記担当施策全て
出雲 明子	東海大学 政治経済学部 政治学科 准教授	同上
武藤 博己	法政大学大学院 公共政策研究科 教授	同上
坂田 融朗	政策経営部長	同上
小川 賢太郎	教育担当部長	4、9、10
歌川 さとみ	保健福祉部長（高齢者総合サポートセンター担当部長兼務）	28、29、32、35
大森 幹夫	まちづくり担当部長	11、30、31、33

3 担当施策

No	施策の目標
4	清潔で、風格ある、安全・安心なまちづくりを進めます
9	千代田区の魅力を効果的に発信するとともに、地方との連携により、区内地域の活力を高めます
10	中小企業や商工業の活性化を支援します
11	消費生活にかかる相談、支援を充実します
28	区民が自主的に学習活動に取り組み、また、スポーツに親しめる環境づくりを進めます
29	豊かな歴史や文化資源、文化芸術を気軽に楽しみ、親しめる環境づくりに取り組みます
30	地域力の向上を支援します
31	マンション内コミュニティの醸成を支援します
33	人権侵害のない社会をめざします
32	男女共同参画社会の実現をめざします
35	国際交流・協力や平和活動を推進します

二次評価					
施策の目標	4	清潔で、風格ある、安全・安心なまちづくりを進めます	分科会	地域振興	
評価結果					
B	合計 (75点)	主な取組み (25点)	指標 (25点)	今後の方針 (25点)	
	57	21	18	18	
主な意見					
主な取組み	<ul style="list-style-type: none"> ● 路上喫煙対策は、区が全国に先駆けて最初に始めた取組みであり、先進的な取組みを継続的に実施できているところは評価できる。 ● 喫煙過料適用件数は増えてきているため、新たな対策が必要ではないか。 				
指標	<ul style="list-style-type: none"> ● 「路上喫煙過料適用件数」は、指導・取締りの巡回場所によって違反検挙の数値が変わる。苦情が寄せられる箇所を重点的に行うとなると、取締り件数を下げることは難しいのではないかと。また今後、来街者が増えていく中で、一定程度目標件数を超えてしまうのはやむを得ない。取組みの効果を測るには別の指標設定をした方が良い。 ● 東京2020オリンピック・パラリンピックで来街者が増えることを考えれば、区民だけでなく「安全・安心なまち」と思う来街者の指標があっても良いのではないかと。 ● 「『安全・安心なまち』と思う人の割合」は、区の施策だけで達成できるものではないので、適切な指標の設定が難しい。 ● 分散型喫煙所の設置の考え方は、受動喫煙による建物内禁煙など社会事情の変化によって変わってきている。そのため、指標も変更せざるを得ないのではないかと。 				
今後の方針	<ul style="list-style-type: none"> ● 路上喫煙対策の取り締まりに関しては、今後、新たな視点での取組みが必要である。ルールからマナーへ戻すような取組みも必要ではないかと。 ● 今後、外国人の来街者が増加することが想定されるため、路上喫煙過料適用者の属性等の分析を通じて、来街者へ向けた路上喫煙禁止の効果的な周知方法や具体的な取組みを検討してほしい。 ● 路上放置物対策は、地域毎のルールや、路上に看板等の設置を有料で認めるような対策も検討しても良いのではないかと。 ● 客引きの取り締まりが今後増えていくことが想定されるため、委託警備員の増員等どのように対応するかを検討する必要がある。 				
(参考)各委員評価					
委員	判定	合計 (15点)	主な取組み (5点)	指標 (5点)	今後の方針 (5点)
学識委員	B	10	4	3	3
学識委員	A	13	5	4	4
学識委員	B	10	4	3	3
内部委員	B	12	4	4	4
内部委員	B	12	4	4	4

二次評価				
施策の目標	9	千代田区の魅力を効果的に発信するとともに、地方との連携により、区内地域の活力を高めます	分科会	地域振興
評価結果				
C	合計 (75点)	主な取組み (25点)	指標 (25点)	今後の方針 (25点)
	47	17	15	15
主 な 意 見				
主な取組み	<ul style="list-style-type: none"> ● 「観光協会が観光の多様な連携の中核を担う組織となっている」ことが「めざすべき10年後の姿」として設定されているが、その機能や取組みについて示されていないため、評価できない。 ● 地域振興的な政策として、シティプロモーションは必要だが、取り組み始めたばかりで今後の方向性が定まっておらず、他自治体と比較しても取組みが少ないのではないかと。 ● 区民は地方との連携よりも、シティプロモーションや区の魅力向上、情報発信を期待しているのではないかと。魅力発信のための区内企業との連携などを探るべきではないかと。 ● 区民アンケートにおいて、地方との連携は「重要ではない」、「あまり重要ではない」の割合が高い。区民は、地方との連携や行政の内部的な魅力発信の必要性を感じていないのではないかと。 ● 千代田区魅力発信会議の設置やちよだフードバレーネットワークの活動、千代田区公共デザインマニュアルの策定等、しっかりと事業は行われていると評価できる。 			
指標	<ul style="list-style-type: none"> ● 「千代田区への定住意向がある人の割合」について、世論調査の結果では、定住したい一番の理由が「交通の利便性」となっており、必ずしも区民として誇りを実感しているかを測る指標になっていない。指標の見直しが必要ではないかと。 ● 「外国人観光案内所の利用者数」を指標として設定しているが、今後はインターネット上の観光案内サイト等の利用が中心となり、観光案内所の利用は増えないのではないかと。指標の再検討が必要ではないかと。 			
今後の方針	<ul style="list-style-type: none"> ● 区内の企業と連携することで魅力をお互いに高めるといった方策が有効ではないかと。どうすれば連携してもらえるか、企業側にメリットがある方策を検討する必要があるのではないかと。 ● 区の立地や住民意識を考えると、他の自治体と同様な、ありきたりの地方との連携よりも国外への情報発信や外国都市との連携など、インパクトのある取組みを示す必要があるのではないかと。 ● 外国人・日本人問わず区内に誘導するため、滞在時間に応じた区内観光コースマップのようなものを作成して魅力を発信してはどうかと。 			
その他	<ul style="list-style-type: none"> ● 施策の目標で「区の魅力発信」と「地方連携により区内地域の活力を高める」という広い目標が掲げられているため、5つの主な取組みのそれぞれの方向性が散漫になっており、施策の目標とのつながりが非常にわかりにくい。今後の方針として、観光、都市間連携、文化資源の活用等のうち、どれを重視していくのか、軸を絞って展開した方が良いのではないかと。 			

(参考)各委員評価

委員	判定	合計 (15点)	主な取組み (5点)	指標 (5点)	今後の方針 (5点)
学識委員	C	9	3	3	3
学識委員	B	10	4	3	3
学識委員	C	9	3	3	3
内部委員	B	10	4	3	3
内部委員	C	9	3	3	3

二次評価				
施策の目標	10 中小企業や商工業の活性化を支援します	分科会	地域振興	
評価結果				
B	合計 (50点)	主な取組み (25点)	指標 (-点)	今後の方針 (25点)
	32	17		15
主な意見				
主な取組み	<ul style="list-style-type: none"> ● 単純な中小企業支援ではなく、まちづくり全体の中で中小ビルの活性化に取り組む必要があるのではないか。 ● 中小企業支援を実施する目的は、地元の資本や地域の産業の支援が基本になると思うが、起業や新たなビジネス展開など、個々の事業支援になってしまっている。まちづくりの広い視点でのアプローチが必要ではないか。 ● 商工団体の組織率が下がっており、商工団体に加入していない事業者の方が増加している状況のため、支援のあり方をもう一度整理すべきではないか。 ● 区内消費の促進について、商店街への誘導など、来街者向けの方策を検討すべきではないか。 ● 以前から取り組んできた支援や事務事業に加えて、起業の支援や新たなビジネス展開への支援を行っており、非常に幅広く取り組んでいることは評価できる。 			
指標	<ul style="list-style-type: none"> ● 産業財産取得支援の件数等が増えている実情にあるが、指標が1つしか設定されておらず、今回は数値の把握ができていない。経済関係の指標は多数存在することや区の融資件数なども考えられるため、追加指標の検討が必要ではないか。 ● まち・ひと・しごと創生総合戦略の指標を準用する等、次の評価の際には、指標の追加を検討するべき。 ● 日本経済全体が、モノの販売額頼みの経済成長が見られず、指標の目標達成までの経済の伸びは期待できない。目標値の設定が高すぎたのではないか。 ● 経済センサスのデータを元に作成している指標にもかかわらず、経済センサスのデータがない年度の数値を目標に掲げることは不適切ではないか。 			
今後の方針	<ul style="list-style-type: none"> ● 軸となる融資に加えて、経営相談を行い、双方から支援を行う方向性は妥当である。ただし、区として何の産業に力を入れて支援・育成していくのか明確にした方が良いのではないか。 ● 産業財産取得支援事業は、今後の施策展開において取組みの中心になるのではないか。引き続きPR等に取り組むと良いのではないか。 ● 街並みの景観的にも、伝統的な地元資本や産業を継続させるための取組みは評価できるが、店頭販売からネット販売にシフトしている中で、今後の支援のあり方は相当難しい。中小企業のノウハウやデータをバックアップできるような支援などを検討した方が良いのではないか。 			

(参考)各委員評価

委員	判定	合計 (10点)	主な取組み (5点)	指標 (-点)	今後の方針 (5点)
学識委員	C	6	3		3
学識委員	B	7	4		3
学識委員	C	6	3		3
内部委員	C	5	3		2
内部委員	B	8	4		4

二次評価					
施策の目標	11	消費生活にかかる相談、支援を充実します	分科会	地域振興	
評価結果					
C	合計 (75点)	主な取組み (25点)	指標 (25点)	今後の方針 (25点)	
	47	19	13	15	
主な意見					
主な取組み	<ul style="list-style-type: none"> ● 大学や福祉関連事業者とのネットワークを築きながら連携して、消費生活センターが様々な役割を果たしている点は評価できる。 				
指標	<ul style="list-style-type: none"> ● 「消費生活センターを知っている人の割合」であれば、目標値はより高くしても良いのではないか。また、相談件数や被害件数等の指標もあった方が良いのではないか。 ● 「消費生活センターの利用者満足度」のような指標を追加しても良いのではないか。 				
今後の方針	<ul style="list-style-type: none"> ● 消費者の自己責任が求められる中で、消費生活センターの役割は重要であるはず。施策の目標に掲げられた「相談、支援の充実」の実現に向け、来庁や電話以外にもまずはメールで相談できるような相談体制づくりが必要ではないか。利用者の目線に立って取組みを行うべきではないか。 ● 相談を受けるだけでは新しい問題は把握しにくい。あらゆる消費サービスを視野にワンストップで問題解決を行うような体制づくりの視点があっても良いのではないか。 ● 国や都、区に消費生活センターのような相談機能がある中で、各機関でのカバー範囲、ネットワークの形成など、役割分担の明確化ができれば良いのではないか。 ● 今後の方針に記載されている内容が、消費生活センター関係だけになっている。今後の課題は施策全体のことを幅広く記載すべきではないか。 				
その他	<ul style="list-style-type: none"> ● 消費生活センターの都と区の違いが見えない。相談件数の実績も少なく、都との違いは区内の消費者教育等の啓発だけということであれば、区は消費生活センターを設置せず、啓発は市民協働による消費者団体との連携で行い、高齢者からの消費生活相談は高齢者総合サポートセンターに対応窓口を設置することで良いのではないか。 				
(参考)各委員評価					
委員	判定	合計 (15点)	主な取組み (5点)	指標 (5点)	今後の方針 (5点)
学識委員	C	9	4	2	3
学識委員	C	9	4	3	2
学識委員	C	8	3	2	3
内部委員	B	11	4	3	4
内部委員	B	10	4	3	3

二次評価				
施策の目標	28	区民が自主的に学習活動に取り組み、また、スポーツに親しめる環境づくりを進めます	分科会	地域振興
評価結果				
B	合計 (75点)	主な取組み (25点)	指標 (25点)	今後の方針 (25点)
	53	19	19	15
主な意見				
主な取組み	<ul style="list-style-type: none"> ● 図書館を除いて自主的な学習活動やスポーツに親しめる各種メニューや、環境が整備されており、目標とする数値も比較的順調に進捗していると評価できる。 ● 生涯学習カレッジは、今後、他の施策にも反映できそうな取組みで、幅広く・特色のある活動が展開されていると評価できる。 ● 主な取組みの範囲が広過ぎて、何に視点を置いているかわかりにくい。 			
指標	<ul style="list-style-type: none"> ● 「ちよだ生涯学習カレッジの修了者数」の目標値が低いのではないかと。受講者が今後、先細りする可能性もあるので、その対策を検討する必要があるのではないかと。 ● ちよだ生涯学習カレッジの人材をどうしていくかという視点の指標設定があった方がよいのではないかと。 			
今後の方針	<ul style="list-style-type: none"> ● スポーツ指導者確保のため、ちよだ生涯学習カレッジでスポーツ指導者コースのようなものができるか。その上で、文部科学省所管のスポーツ指導者制度における指導者リストから区内在住者にアプローチをして、人材バンクに登録してもらう方法もあるのではないかと。 ● 図書館運営の取組みとして、人材バンクや生涯学習カレッジの活動の場を提供するなど区民参加の取組みが弱いのではないかと。 ● かがやき大学の講師として生涯学習カレッジの修了生を使うなど、連携・協力する仕組みを検討してはどうか。 ● 皇居ランのような区の特徴的な運動スタイルを活用すれば、区民の誇りの醸成や地域ぐるみの運動習慣に繋がられるのではないかと。 ● 新スポーツセンターについて今後の方針が全く示されていない。 ● 区民が観戦することで盛り上がる特定のスポーツがあれば、「スポーツに親しめる環境づくり」の取組みのひとつになるのではないかと。 ● 外国人や障害者等、趣味・関心事等を見つける機会や学習機会に接することが少ない人への案内に力点を置くことも必要ではないかと。 			
その他	<ul style="list-style-type: none"> ● 「めざすべき10年後の姿」が、現在設定している指標を達成することで果たしてできるのかという点について、指標の設定、目標値の考え方を検討していく必要があるのではないかと。 ● 区民だけでなく在勤者を交えたスポーツが盛んになっており、スポーツを通じて、区民や在勤者、その他さまざまな層が交流できる環境がつけられているというのは千代田区の魅力の一つではないかと。 			

(参考)各委員評価

委員	判定	合計 (15点)	主な取組み (5点)	指標 (5点)	今後の方針 (5点)
学識委員	B	11	4	4	3
学識委員	B	10	4	3	3
学識委員	B	11	4	4	3
内部委員	B	10	3	4	3
内部委員	B	11	4	4	3

二次評価				
施策の目標	29	豊かな歴史や文化資源、文化芸術を気軽に楽しみ、親しめる環境づくりに取り組みます	分科会	地域振興
評価結果				
C	合計 (75点)	主な取組み (25点)	指標 (25点)	今後の方針 (25点)
	45	17	14	14
主な意見				
主な取組み	<ul style="list-style-type: none"> ● 区内の文化資源がまだ活用や観光に結びついていない。文化財サイン整備などのハード面での事業展開の他に、歴史的な視点を加えたソフト面での文化財の活用があると良いのではないかと。 ● 文化財サインの多言語化について、課題もあるが、実施していこうとしている姿勢は評価できる。 ● 区は、民間では採算が取れず実施できないが、文化芸術を広めるために必要な特定の事業等に特化して実施した方が良いのではないかと。 ● 区が行うべき文化芸術事業は、文化に触れる機会の提供ということが中心ではないかと。その視点から見れば順調に進捗していると評価できる。 			
指標	<ul style="list-style-type: none"> ● 「文化芸術事業の参加者数」のような延べ人数を目標数値にすることは適切ではない。障害者のアートなど区が広げていきたい事業への参加者などにターゲットを絞った目標値にした方が良いのではないかと。 ● 文化芸術事業は、参加すること自体よりも参加者に満足してもらうことが重要。芸術性や文化性の高い事業等を行うことで満足度を高め、その満足度を指標にしてはどうか。 ● 今まで、図書館サービスは予算をつぎ込み実施した結果、目標値もすでに達成しているため、到達点を議論すべき時期にきているのではないかと。 ● 「区立図書館のサービスに満足している利用者の割合」は、利用者は満足度が高いから利用するのであり、最適な指標とはいえない。図書館に行かない人を、どう図書館に惹き付けるかが重要なので「区民全体に対し、図書館を利用する方の割合」などの指標の方が良いのではないかと。 			
今後の方針	<ul style="list-style-type: none"> ● 文化芸術活動において、ちよだアーツクエア事業をさらに拡大する必要があるのではないかと。 ● 文化芸術活動を地域で実施することを通じて、外国人や性的マイノリティーの方など多様な人が関わり合えるような事業ができれば、大都市ならではの活動展開が可能となるのではないかと。その視点の取組みが少ないのではないかと。 ● 企業やNPO法人等が保有している文化資源を地域のために開放してもらうきっかけづくりを検討していくべきではないかと。 ● 「文化資源の見える化の展開」の取組みについて、増加する外国からの来街者に対して、今後区の魅力をどう発信するかの視点があると良いのではないかと。 ● 区の代表すべき文化、クールジャパンに関わる視点があると良いのではないかと。 			
その他	<ul style="list-style-type: none"> ● 複数の施策の目標に紐づく取組みについては、それぞれの施策の目標に応じた成果と課題を記載しなければ視点が違うように見えない。再掲の取組みに関する表記が同一なのは問題ではないかと。 			

(参考)各委員評価

委員	判定	合計 (15点)	主な取組み (5点)	指標 (5点)	今後の方針 (5点)
学識委員	C	8	3	3	2
学識委員	C	8	3	2	3
学識委員	C	9	3	3	3
内部委員	B	10	4	3	3
内部委員	B	10	4	3	3

二次評価				
施策の目標	30 地域力の向上を支援します	分科会	地域振興	
評価結果				
B	合計 (75点)	主な取組み (25点)	指標 (25点)	今後の方針 (25点)
	50	18	16	16
主な意見				
主な取組み	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域力の向上は民間の主体的な活動が前提となるため、行政は環境整備等の支援に留まらざるを得ないことは理解できる。 ● 様々な事業を実施し、地域の主体的な活動を幅広く支援していると評価できる。 ● 地域の自立的な活動の側面支援として、ファシリテーター派遣をモデル事業として実施するなど、地域問題の解決支援について課題認識し、取り組んでいる点は評価できる。 			
指標	<ul style="list-style-type: none"> ● 「昼間区民の地域活動への参加割合」が指標として設定されている一方、在住区民の参加割合に関する指標がないため、指標を追加するべきではないか。 ● 昼間区民の地域活動への割合を増やしたいのであれば、企業と連携した取組みを行うべきではないか。 			
今後の方針	<ul style="list-style-type: none"> ● 取組みを広げすぎている印象があるため、改めて精査し、行政として支援するポイントを絞り込む必要があるのではないかと。その上で、区民から提案があった場合には、一緒に新しい仕組みを作るような取組みをしていけば良いのではないかと。 ● 従来の町会などの地縁団体や商店街では解決が難しい課題に対応するため、地域のエリアマネジメント組織を育成、支援する仕組みを検討しても良いのではないかと。 ● 万世橋出張所・区民館の整備については、単なる集会施設ではなく、町会以外の人にも活動の機会が与えられるような施設の活用方法を検討してはどうか。 ● 情報共有や交流、連携などの質を高めるような視点が、今後は必要ではないか。 ● 住民参加について、昼間区民に過度の期待をせず、在住区民への取組みを進めるべきではないか。 			

(参考)各委員評価

委員	判定	合計 (15点)	主な取組み (5点)	指標 (5点)	今後の方針 (5点)
学識委員	B	10	4	3	3
学識委員	C	9	3	3	3
学識委員	B	10	4	3	3
内部委員	B	10	3	3	4
内部委員	B	11	4	4	3

二次評価				
施策の目標	31 マンション内コミュニティの醸成を支援します	分科会	地域振興	
評価結果				
C	合計 (75点)	主な取組み (25点)	指標 (25点)	今後の方針 (25点)
	45	18	13	14
主な意見				
主な取組み	<ul style="list-style-type: none"> ● 賃貸マンション居住者への具体的な取組みがあまり見えないのではないか。 ● 分譲マンションに関する取組みが総合的に行われていることは評価できる。 ● まちみらい千代田で行っている、マンション住民の自発的な活動を促す取組手法は評価できる。 			
指標	<ul style="list-style-type: none"> ● 「マンションに関する課題を協議する会合への参加者数」は、初期値が少ないのではないか。平成36年度の目標値を360人と設定しているが、実際の居住者総数と比較すれば、目標以上の数値の向上が求められるのではないか。 ● マンション内会合への参加者数は上がっているが、その参加者の会合に対する満足度がわかる指標があれば、より良いのではないか。 ● 「町会や地域の活動、ボランティア活動へ参加したことのあるマンション居住者の割合」は、目標値達成までのハードルが高いので、まずは「近所で顔見知りがいる」といった程度の指標でも良いのではないか。 			
今後の方針	<ul style="list-style-type: none"> ● マンション居住者が自身のマンションに対する問題意識を持ってもらうための取組みを行う必要があるのではないか。 ● マンションと地域とのつながりをつくるためには、マンションからだけでなく、町会からのアプローチも必要。例えば管理組合単位ではなく、個人単位で町会に加入するような働きかけなどを行っても良いのではないか。 ● 賃貸マンションの居住者を対象に行う施策について、具体的な対策や取組みを具現化することが必要ではないか。 ● 自主防災組織の設立数がマンション総数に比べて少ないため、さらなる取組みを推進すべきではないか。 ● 防災や安全の観点を中心に、引き続きマンション内だけでなく、地域とも連携を強化する取組みが必要ではないか。 ● 地域とマンションとの親交を深めるための方策を行うことにより、地域の活性化の推進が重要ではないか。 			

(参考)各委員評価

委員	判定	合計 (15点)	主な取組み (5点)	指標 (5点)	今後の方針 (5点)
学識委員	C	7	3	2	2
学識委員	C	9	4	2	3
学識委員	B	10	4	3	3
内部委員	C	9	3	3	3
内部委員	B	10	4	3	3

二次評価				
施策の目標	32	男女共同参画社会の実現をめざします	分科会	地域振興
評価結果				
B	合計 (75点)	主な取組み (25点)	指標 (25点)	今後の方針 (25点)
	49	18	16	15
主な意見				
主な取組み	<ul style="list-style-type: none"> ● 男女共同参画センターM Wの取組みは着実に実施していると評価できる。 ● 講座の充実や利用者の増加といった面では成果が出ている一方で、企業支援の取組みが不足しているのではないかと。 ● 中小企業の支援件数が増えても、あまり男女共同参画の推進にならないため、支援執行方法の検討が必要ではないかと。区内企業等の女性登用率等を示せば、一定の効果は期待できるのではないかと。 ● 女性が管理職になるには、組織の理解が大事であるが、ワークライフバランス等の視点からの取組みも必要ではないかと。 			
指標	<ul style="list-style-type: none"> ● 「区役所の管理・監督者のうち女性が占める割合」、「男女の性別により不平等があると思う人の割合」の各指標は、目標値達成が難しいのではないかと。 ● 「男女共同参画センターM Wの利用者数」は目標値をほぼ達成してしまっているため、目標値の設定の仕方に工夫が必要ではないかと。 ● 「男女共同参画センターM Wの利用者数」は、利用が増えることで、男女共同参画が推進されたことになるのか疑問である。指標の再検討が必要ではないかと。 			
今後の方針	<ul style="list-style-type: none"> ● M Wの認知度向上や企業支援の拡大等、取組みを推進させていく必要があるのではないかと。 ● 講座・講習会を充実させるのは良いが、意識変容に繋げるにはどうすれば良いかを検討する必要があるのではないかと。 ● M Wにおけるハラスメント対応に関するあり方の言及が足りないのではないかと。 ● 部長や人事課長、財政課長が女性の自治体は少ない。今後も引き続き区がリーダーシップを持って、他の自治体に対して示していくことが重要ではないかと。 ● 女性管理・監督者を増やすためには、制度を整えるだけでなく、彼女たちをきちんと支えるためのインフォーマルな仕組みや職員同士の繋がりが重要である。区としてもそのような自主的なグループを支援する仕組みがあると良いのではないかと。 ● 審議会等の女性委員の割合を増やそうとしても、地域団体からは男性や同じ女性が参加することが多いため、対策や仕組みづくりが必要である。また、区民に対し、女性参画による具体的な効果等を伝え、理解を得ることが必要ではないかと。 			

(参考)各委員評価

委員	判定	合計 (15点)	主な取組み (5点)	指標 (5点)	今後の方針 (5点)
学識委員	B	10	3	4	3
学識委員	C	9	4	2	3
学識委員	B	10	3	4	3
内部委員	B	10	4	3	3
内部委員	B	10	4	3	3

二次評価				
施策の目標	33 人権侵害のない社会をめざします	分科会	地域振興	
評価結果				
C	合計 (75点)	主な取組み (25点)	指標 (25点)	今後の方針 (25点)
	47	18	14	15
主な意見				
主な取組み	<ul style="list-style-type: none"> ● 幅広い事業展開の一方で、外国人の人権問題に積極的な取組みをされていないように見える。 ● 取組みが虐待に特化してしまっており、虐待以外の人権問題の取組みも行うべきではないか。 ● 相談の増加に伴って支援が拡充されており、相談にはきめ細かく対応していると評価できる。 			
指標	<ul style="list-style-type: none"> ● 「DV被害や児童虐待、いじめなどのない人権が尊重されている社会であると思う人の割合」は、感じる側の問題認識で数値が左右される。自分の人権が阻害されていない人は、人権が尊重されている社会だと理解することが多くなってしまっているので、指標の再検討をした方が良いのではないか。 ● 虐待をなくすことが重要なので、虐待の件数の把握とそれを減らしていくという指標が重要ではないか。 ● 取組みの効果がわかりにくいいため、個別相談を場合分けし、それぞれの対策を示す指標の追加を検討することが必要ではないか。 ● 暴力的な行為を受けた、あるいはそういうところに遭遇した人たちが、「相談に行ける機関等が自分には有る」といった指標があっても良いのではないか。 			
今後の方針	<ul style="list-style-type: none"> ● ケアラー（家族等の無償の介護者）の心理的な問題や、外国籍の区民に対する取組みを行うことが重要ではないか。 ● 今後、DVや虐待の未然防止、潜在的な被害者の掘り起こしを行っていくことを考えると、家庭状況や生活困窮の把握が必要となるため、さらなる取組みが必要ではないか。 ● 人権の問題は、専門性が高い問題なので、相談体制や保護体制の確立が今後重要になるのではないか。 ● 区民との協力が必要な分野だが、その点が示されていないのではないか。 ● 児童相談所の移管などを見据えた取組みを考える必要があるのではないか。 			
その他	<ul style="list-style-type: none"> ● 種類別相談件数を意図的に計画や指標に掲載することで、新しい課題に対する意識啓発のツールとして使っていくというやり方もあるのではないか。 			

意 見

委員	判定	合計 (15点)	主な取組み (5点)	指標 (5点)	今後の方針 (5点)
学識委員	C	9	3	3	3
学識委員	C	9	4	2	3
学識委員	B	10	4	3	3
内部委員	C	9	3	3	3
内部委員	B	10	4	3	3

二次評価				
施策の目標	35	国際交流・協力や平和活動を推進します	分科会	地域振興
評価結果				
C	合計 (75点)	主な取組み (25点)	指標 (25点)	今後の方針 (25点)
	41	14	15	12
主 な 意 見				
主な取組み	<ul style="list-style-type: none"> ● 国際交流事業は、平和事業が中心になってしまい、その他の活動が少なく感じる。国際交流や多文化に重点をおいた活動が必要ではないか。 ● 多文化共生が区民生活にまだ根付いていない中で、東京2020オリンピック・パラリンピックで大勢の外国人が訪れることを考えると、防災面などで、十分に対応できないのではないか。 ● 「外国人との交流を行いたい人の割合」の世論調査結果が75%となっているにも関わらず、その人たちが参加につながっていない。特に外国人住民のコミュニティ参加につながる取組みになっていないのではないか。 ● 区内で生活している外国人のサポートについて、国際交流・協力ボランティアバンク制度を活用し、日本語支援や通訳などの取組みを行っているが、対応が不十分な側面があるのではないか。 			
指標	<ul style="list-style-type: none"> ● 「区が行う平和事業に参加したことのある人の割合」は、区が行う事業に限定してしまっているため、参加率が低くなっている。区以外の平和関連事業への参加も含めた指標でも良いのではないか。また、平和事業は青少年だけではなく、高齢世代にも対応した事業であるべきではないか。 ● 「国際交流・協力ボランティア登録者数」の目標値は、現状からすれば倍以上の数値だが、国際交流ができる環境の目標値としては不足しているのではないか。 ● ボランティア登録数より実際の活動につながっているかという視点の指標を設定した方が良いのではないか。 ● 「外国人との交流を行いたい人の割合」は目標値がかなり高く設定されており、達成が難しいので、目標値の見直しをする必要があるのではないか。 ● この指標の設定の仕方、妥当性については、再検討する必要がある。区が直接実施する事業だけで区民の平和意識や国際交流の進捗が図られるという発想はやめた方が良いのではないか。 			
今後の方針	<ul style="list-style-type: none"> ● ウェブサイト等の多言語対応について、生活に最低限必要な内容だけは自動翻訳ではなく、正確な翻訳を行い、外国人の背景にある文化や歴史等を踏まえた上で、外国人向けの情報提供を考える必要があるのではないか。 ● 国際交流を行う民間団体や企業を支援する方策を検討する必要があるのではないか。 ● 外国人が持っている区への不安や期待を把握しながら対応していくことが重要である。日本人が外国人とどう関われるのかというより、外国人が主体的に活躍できる場を作った方が良いのではないか。 ● 東京2020大会で国際交流の機運が高まり、自主的な活動が活発化することが予想される状況を踏まえた上で、支援策の検討等を行っていくという視点がないのではないか。 ● これからは労働力不足により、外国人を受け入れていくことになると思われるので、観光振興や文化交流の視点だけでなく、負の側面も視野に入れて、今後の方針を検討する必要があるのではないか。 ● 区に対する期待値と比べると取組みが印象に残りづらいので、再検討する必要があるのではないか。 			

(参考)各委員評価

委員	判定	合計 (15点)	主な取組み (5点)	指標 (5点)	今後の方針 (5点)
学識委員	C	7	2	3	2
学識委員	B	10	4	3	3
学識委員	C	7	2	3	2
内部委員	C	9	3	3	3
内部委員	C	8	3	3	2